

中・大型トラック、バス ブレーキ・ペダルの点検に関するお願い (ブレーキ・ペダルの戻り不良による「火災」事故防止)

日常(運行前)点検や、定期点検において、ブレーキ・ペダルを点検する際には、次の点に注意して点検します。点検を怠ったり異常を放置したままにしたりすると、**ブレーキの戻り不良(引きずり)など思わぬ故障を招き、(火災など)重大な事故を起こすおそれがあります。**

※ブレーキ・ペダルの点検は、ブレーキの機能を点検(確認)するために、たいへん重要です。

ブレーキ・ペダルの点検は、「日常点検」、自家用貨物等では「6月点検」、事業用等では「3月点検」に、定められています。



【ブレーキ・ペダル点検時の注意点】

- ブレーキ・ペダルの下部(ブレーキ・ペダルとブレーキ・バルブの連結部)に、泥、砂など異物の付着がないか点検します。

水分を含んだ泥、砂などの異物を放置すると、ペダル摺動部に錆が発生して、ペダルの渋りや引っ掛かりの原因となります。そのままにすると、**ブレーキの戻り不良(引きずり)に至り、ブレーキが過熱して(火災など)重大な事故を起こすおそれがあります。**

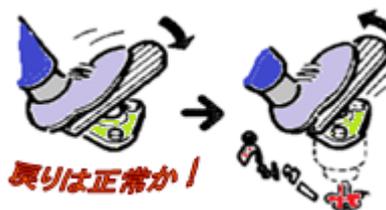
必ず、泥、砂などの異物を取除き、ブレーキ・ペダルの下部(ブレーキ・ペダルとブレーキ・バルブの連結部)の周辺を清掃します。清掃後、ブレーキ・ペダルに「渋りや引っ掛かりがないか」、また「ペダルの戻りは正常か」、点検します。

異常がある場合には、ブレーキ・ペダル及びブレーキ・バルブを分解して点検・整備を行います。(異常が感じられなくても、長年の異物の堆積による錆などが心配される場合は、分解して点検・整備を行います)

※ブレーキ・バルブ内部のゴム部品等は、定期交換部品です。(交換時期はメンテナンスノート等を参照してください)また、分解して行う点検・整備の要領は、各社の「点検・整備のマニュアル」等を参照してください。

※エア・ブレーキ車で、オルガンタイプのブレーキ・ペダル。

特に、降雪地域等キャビン内に泥や砂、雪などが入りやすい環境で使用される車両、また、長期間ブレーキ・バルブのオーバーホールをしていない(長期使用車等)車両では、注意が必要です。



【ブレーキ・ペダルの異常を示すサイン】

故障を起こす前には、必ず予兆(サイン)があります。予兆(サイン)を見逃さずに、点検整備を行ってください。

➤ ブレーキ・ペダルの遊びが少ない時や、引っ掛かりがある時

ペダルを一杯に踏み込み ゆっくり戻した時に、途中で、ペダルに引っ掛かりがある時や、エアの排気音が短く、遊びが極端に小さくなった時は、ブレーキ・ペダルの戻り不良が起きていることがあります。

➤ ブレーキ・ペダルの遊びが大きい時

エアの排気音が短く、ペダルの遊びが極端に大きくなった時は、ブレーキ・バルブの内部部品に戻り不良が起きていることがあります。

➤ ブレーキのエアの排気音が長い時や短い時

エアの排気音が長くなった時(または短くなった時)は、ブレーキ・バルブの内部部品の故障やペダルの戻り不良が起きていることがあります。

- 普段より加速感や力がなくなったと感じた時や、惰行時にブレーキがかかったように感じる時は、ブレーキの戻り不良(引きずり)の可能性があります。